

長崎大学名誉博士称号授与者の略歴及び功績

名誉博士称号授与者（第1号）

シモムラ オサム

下村 脩 氏

昭和3年8月27日生（80歳）

略

歴

昭和23年	4月	長崎医科大学附属薬学専門部入学
26年	3月	長崎医科大学附属薬学専門部卒業
26年	4月	長崎大学薬学部実験実習指導員
34年	7月	長崎大学薬学部助手（～昭和38年9月）
35年	4月	理学博士（名古屋大学）
35年	8月	プリンストン大学研究員（フルブライト奨学金 ～昭和38年8月）
38年	9月	名古屋大学理学部附属水質科学研究施設助教授
40年10月		プリンストン大学上席研究員（～昭和57年）
56年		ボストン大学客員教授（兼任）（～平成12年）
57年		ウッズホール海洋生物学研究所上席研究員
平成13年		ウッズホール海洋生物学研究所退職 マサチューセッツの自宅にて研究継続，現在に至る
昭和35年		フルブライト奨学金
平成16年		Pearse Prize（英国王室顕微鏡学会）
平成17年		Emile Chamot Award（イリノイ州顕微鏡学会）
平成19年	1月	朝日賞（朝日新聞文化財団）
平成19年10月		長崎大学名誉校友称号

功

績

下村 脩氏は、長崎医科大学附属薬学専門部を卒業後、本学の助手となり、名古屋大学で理学博士を取得した。フルブライト奨学金により、米国プリンストン大学に留学の機会を得、ライフワークとなるオワンクラゲの生物発光とめぐり合った。下村氏は、世界で初めてオワンクラゲより発光タンパク質イクオリンと緑色蛍光たんぱく質GFPを発見し、オワンクラゲの発光機構を解明した。

その後、種々の発光生物の科学的解明を行い、生物発光分野での世界的な権威となっている。特にGFPは、他の遺伝子に融合させて細胞に導入すると、生きた細胞内の特定の場所に蛍光を作り出すことができるため、遺伝子発現のレポーターやタンパク質の標識として多用されており、分子生物学の分野に大きな貢献をなしている。このたび、このGFPを発見したことにより、ノーベル化学賞を受賞した。

このように、下村氏は本学を卒業後、米国において世界的な科学者として活躍し、学術文化の発展に多大の業績を挙げ、本学の名誉を高め、また学生及び若い研究者を大いに発憤興起させ、もって本学の教育及び研究の進展に寄与した功績は顕著である。